

平成 31 年度当初予算原案に係る
公営企業局主要事業（水道・工業用水道・
下水道・モーターボート競走事業）
の調整状況について

平成 30 年 12 月
尼崎市公営企業局

○予算原案の調整過程における公営企業局主要事業の公表にあたって

水道事業、工業用水道事業、下水道事業及びモーターボート競走事業を取り巻く経営環境は、人口減少に伴う料金収入の減少、施設等の老朽化に伴う更新需要の増大、大規模災害などへの危機管理対策の強化など、厳しさを増しつつあります。

このような状況を踏まえ、平成 30 年 4 月に、これらの事業を所掌する水道局、都市整備局下水道部、公営事業局の組織を統合し、新たに公営企業局を設置し、これまで各事業で培ってきたノウハウや組織統合によるスケールメリットを生かし、各事業が連携し事業運営を行い、経営基盤の強化を図ることとしております。

このたび、公営企業の各事業に対する市民の理解と関心を深め、情報共有を図る観点から、平成 31 年度公営企業局予算原案の調整過程における主要事業を公表し、ご意見を聞く機会を設けることとしました。

なお、平成 31 年度予算は、市議会の審議を経て確定します。

【公営企業における事業運営の基本的な考え方】

- 1 公営企業局では、中長期的な視点で選択と集中を行い、事業の効率化を図るなど経営基盤の強化に取組み、持続可能な事業運営を目指します。
- 2 水道事業、工業用水道事業及び下水道事業は料金収入等を以って独立採算による事業運営を行い、市民生活や産業・都市活動を支えるライフラインの役割、雨水による浸水防止や汚水処理による生活環境の保全の役割などを、モーターボート競走事業は収益を確保し、市のまちづくりに貢献する役割を果たしています。

○予算原案作成するにあたって重点化する施策の考え方

(1) 水道・工業用水道事業

更新時におけるダウンサイジングによる施設規模の縮小、投資時期などを考慮した効果的、効率的な整備に取組む。また、近い将来発生が予想されている大規模災害時における危機管理対策に積極的に取組む。

現行ビジョンの最終年度であることから、期間内に設定した目標の達成に向けた方策を着実に推進する。

- ① 水道・工業用水道の次期ビジョンの策定
- ② 老朽化した配水管の更新と耐震化
- ③ 危機管理への対応
- ④ 水道施設の維持・更新

(2) 下水道事業

引き続き、施設の改築更新、浸水対策、地震対策、高度処理等の推進に取り組む必要があり、持続的な下水道機能の確保とライフサイクルコストの低減を図ることなどを目的に下水道施設を計画的かつ効率的に管理するストックマネジメント計画の策定を着実に推進する。

また、中期ビジョン後半計画（平成 29～33 年度）に基づき、事業費の平準化を行いながら各施設の整備を行うとともに、国からの交付金の確保や建設改良積立金の活用などを行うとともに、

施設の維持管理コストの削減や事業手法の見直しを行い、一層の経費の削減・抑制に努める。喫緊の課題である集中豪雨等に伴う浸水対策についても、着実にその実施を図っていく。

- ① 老朽化した下水道管きよの更新と耐震化
- ② 浸水対策
- ③ 地震対策
- ④ 高度処理の推進
- ⑤ 経営基盤の強化に向けた取組み

(3) モーターボート競走事業

現経営計画に掲げている方針を踏襲し、事業の根幹を担う次の項目について、平成 31 年度も重点的に取組む。なお、新たに実施する事業や拡大する事業については、事業効果や費用対効果を踏まえ、次期経営計画（計画期間：平成 31～35 年度）を見据えた内容とする。

- ① 収益の確保
- ② 施設の効率化と快適な施設環境の整備

○掲載内容 ※平成 30 年 12 月 20 日現在

「平成 31 年度当初予算原案に係る公営企業局主要事業の調整状況について」の主要事業一覧

(1) 主要事業（17 件）

新規 3 件 拡充 2 件 継続 12 件

(2) 金額表示

百万円単位で記載しています。

※10 万円単位を四捨五入しています。

※平成 30 年度当初予算、平成 29 年度決算には、繰越額を含んでいます。

(3) その他

※公表している主要事業は、あくまで、平成 30 年 12 月 20 日現在のものであり、今後の調整等により、追加変更等を行う場合があります。

※今回公表する主要事業は、平成 31 年度予算原案に係るものであり、地方公営企業法では、予算原案は、公営企業管理者が作成することとなっており、原案は、市長等の調整を経て、当初予算案となり、平成 31 年 2 月市議会に提案する予定です。

以 上

水道・工業用水道・下水道・モーターボート競走事業

主要事業一覧

水道事業、工業用水道事業、下水道事業

No	事業名	区分	所管課	ページ
1	次期水道・工業用水道ビジョン策定事業	継続	水道部経営企画課	4
2	配水管整備事業 (老朽化した配水管の更新と耐震化)	継続	工務課、管路維持課	5
3	漏水対策事業 (有効率向上対策)	継続	工務課、管路維持課	6
4	神崎浄水場ろ過池設備更新事業	継続	神崎浄水場	7
5	園田配水場集中監視制御設備更新事業	新規	工業用水課	8
6	応急給水拠点整備事業 (仮設給水栓を用いた応急給水拠点の整備)	拡充	水道部計画課、工務課 給水装置課	9
7	上下水道お客さまセンターの開設及び運営	継続	水道部経営企画課	10
8	次期下水道中期ビジョン策定事業	新規	下水道部計画課	11
9	下水道管きよ及び施設の改築更新事業 (老朽化対策)	継続	下水道部計画課、建設課 施設課、浄化センター	12
10	下水道浸水対策事業	継続	建設課、施設課	13
11	下水道地震対策事業	継続	建設課、施設課 浄化センター	14
12	下水道高度処理の推進	継続	施設課	15
13	処理場・ポンプ場の運転操作等業務委託	新規	施設課、浄化センター	16
14	広報・広聴活動	継続	水道部経営企画課 下水道部経営企画課	17
15	水道料金及び下水道使用料の収納率向上	継続	水道部料金課	18

モーターボート競走事業

16	電話投票売上向上事業	拡充	ボートレース事業部経営企画課、 開催運営課	19
17	モーターボート競走場施設改修事業	継続	施設整備担当	20

平成31年度に予定している主要事業

No.1

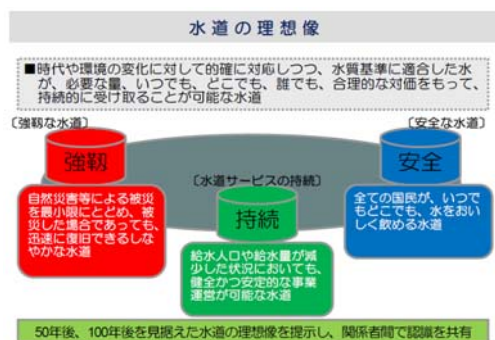
⑨は新規事業 ⑩は拡充事業 ⑪は継続事業

I 水道・工業用水道事業会計

事業名	次期水道・工業用水道ビジョン策定事業 ⑪		
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
<p>目的</p> <p>平成32年度からの事業運営の基本方針となる次期ビジョンの策定を行います。</p>	<p>12百万円 (水道 6百万円 工業用水 6百万円)</p>	<p>55百万円 (水道 28百万円 工業用水 27百万円)</p>	-
平成31年度内容	計画目標		
<p>将来においても安定的に事業を継続していくため、より長期的な視野(40年先の尼崎の人口)を見据えた中で、直近10年間に取組むべき方向性を定めた次期ビジョン(計画期間:平成32年度～41年度)を策定します。</p> <p>具体的な取組むべき方向性は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水供給システムの最適化 人口が減少し、水需要と施設能力との乖離が大きくなっていくことが見込まれるため、<u>今後の水需要に見合った施設の能力に見直していきます。</u> ・災害への備え 近年自然災害が多くなっていますが、その中においても水道がライフラインとしての機能を確保できるように<u>施設の耐震化などを実施し、また市民の皆様や地域と協力して災害対策(リスクコミュニケーション)を行っていきます。</u> ・事業運営の持続 これらの取組みを行っていく上での財源の確保はもちろんです、<u>市民の皆様にも水道に関心を持ってもらい理解を深めてもらうための取組みを今後一層行っていきます。</u> <p>以上の方向性を公営企業審議会において審議していただくとともに、市民の皆様にもパブリックコメントを通じてご意見をお聞きます。</p>	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水需要は給水人口やユーザー企業の減少、節水機器の普及などにより減少傾向にあり、これに伴い給水収益も減少し、平成29年度の水道の給水量はピーク時の平成4年度比較で69.5%となっている。水道、工業用水道とも水需要に対し施設能力が過大となっている。 ・管路や取水場・浄水場等の施設の老朽化が進んでいる。管路は老朽管の更新と合わせ耐震化を進めているが、管路全体の耐震化率は水道22.2%、工業用水道62.4%、水道の基幹管路(管路全体の内、導水管及び口径300mm以上の配水管)の耐震化率は46.2%となっている。(平成29年度末現在) ・非常時における災害対策を充実する必要がある。 <p>策定にあたっての考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より長期的な視点に立ち、40年先の状況を見据え、直近10年間における課題解決の方向性を示す。 ・国が策定した「新水道ビジョン」(平成25年3月)に示されている、「安全」「強靱」「持続」の観点を踏まえる。 ・今後の水需要に対し適切な施設能力のあり方の方向性を明らかにするとともに、アセットマネジメントによる計画的な資産管理を行う。 <p>審議会等開催状況(平成30年度～31年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公営企業審議会 6回開催 ・専門部会 6回開催 <p>平成32年度から次期ビジョンに基づく事業を実施する。</p>		

備考

【ビジョンの目指すべき方向性(イメージ例)】



(厚生労働省:新水道ビジョンより抜粋)

平成31年度に予定している主要事業

No.2

(新) は新規事業 (拡) は拡充事業 (継) は継続事業

I 水道・工業用水道事業会計

事業名	配水管整備事業(老朽化した配水管の更新と耐震化) (継)																				
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																		
<p>目的</p> <p>「重要度」「老朽度」「耐震性」の3つの観点から更新の優先順位を定めた計画に基づき、配水管網再構築(※1)に取り組み、配水管の整備工事を行うとともに、基幹管路及び重要施設に至る管路の耐震化を進めます。</p> <p>また、平常時の水圧が比較的低い北西部地域を対象に、他の地域と分離して管理を行う「配水区域のブロック化」(以下「配水ブロック化」という。)に取り組み、災害時の断水の解消を進めます。</p>	<p>1,536百万円 (水道 1,213百万円 工業用水 323百万円)</p>	<p>1,847百万円 (水道 1,693百万円 (繰越 330百万円を含む) 工業用水 154百万円)</p>	<p>1,766百万円 (水道 1,631百万円 (繰越 537百万円を含む) 工業用水 135百万円)</p>																		
平成31年度内容	計画目標																				
<p>水道事業では、7.9kmの耐震管への更新工事と、水道使用者等の要請に応じて1.5kmの新設工事を行います。また、北西部地域の「配水ブロック化」に必要な電動弁設置の設計業務を行います。</p> <p>工業用水道事業では、0.3kmの耐震管への更新工事を行うほか、0.9kmの撤去工事(※2)を行います。</p>	<p>平成31年度までのビジョンの期間中における基幹管路(※3)の耐震化率は、水道事業で50.0%(計画数値49.1%)、工業用水道事業で63.8%(計画数値63.6%)となる見込みです。</p> <p>また、北西部地域の配水ブロック化については、平成33年度に完了する見込みです。</p>																				
<p>配水管布設工事</p> 	<p>耐震化率</p> <p>水道事業 基幹管路(導水管+配水本管)</p> <table border="1"> <caption>水道事業 耐震化率 (基幹管路)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>耐震化率 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>39.7</td></tr> <tr><td>H25</td><td>40.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>41.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>42.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>43.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>44.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>45.0</td></tr> <tr><td>H31</td><td>50.0</td></tr> </tbody> </table>			年度	耐震化率 (%)	H24	39.7	H25	40.0	H26	41.0	H27	42.0	H28	43.0	H29	44.0	H30	45.0	H31	50.0
年度	耐震化率 (%)																				
H24	39.7																				
H25	40.0																				
H26	41.0																				
H27	42.0																				
H28	43.0																				
H29	44.0																				
H30	45.0																				
H31	50.0																				
<p>北西部地域の配水ブロック化</p> 	<p>工業用水道事業 導水管+配水管</p> <table border="1"> <caption>工業用水道事業 耐震化率 (導水管+配水管)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>耐震化率 (%)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H24</td><td>57.8</td></tr> <tr><td>H25</td><td>58.0</td></tr> <tr><td>H26</td><td>59.0</td></tr> <tr><td>H27</td><td>60.0</td></tr> <tr><td>H28</td><td>61.0</td></tr> <tr><td>H29</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>H30</td><td>63.0</td></tr> <tr><td>H31</td><td>63.8</td></tr> </tbody> </table>			年度	耐震化率 (%)	H24	57.8	H25	58.0	H26	59.0	H27	60.0	H28	61.0	H29	62.0	H30	63.0	H31	63.8
年度	耐震化率 (%)																				
H24	57.8																				
H25	58.0																				
H26	59.0																				
H27	60.0																				
H28	61.0																				
H29	62.0																				
H30	63.0																				
H31	63.8																				

備考


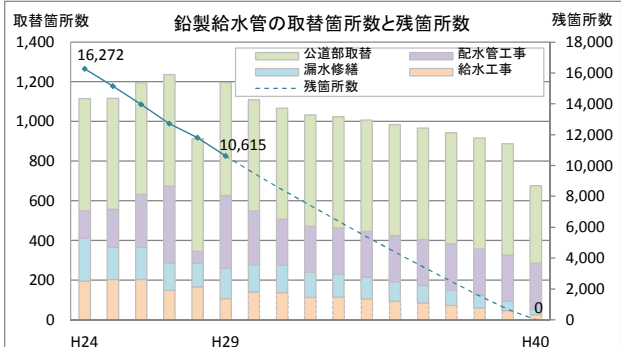
※1 配水管網再構築
水需要が今後も減少する中で老朽化した配水本管の本格的な更新時期が到来することから、今後の配水管整備の長期方針として配水管網の再構築に関する基本構想を平成29年度に策定しました。当構想では、配水ブロック化のほか、水需要に応じた管口径の縮小やバックアップ機能の維持・強化について定めています。

※2 工業水道事業の撤去工事
配水管の口径が大きく同一ルートでの更新が不可能であったため別ルートへ布設替えをし、不用となった既設管路を廃止します。

※3 基幹管路とは
水道事業では、河川から取水した水を浄水場まで運ぶための導水管及び配水本管(本市では口径300mm以上の配水管)を重要な役割を担う管路として位置付け、基幹管路と定義しています。
(国は「国土強靱化基本計画」に基づくアクションプランにおいて、基幹管路の耐震適合率を平成34年度末までに50%に引き上げることを数値目標として掲げています。)
なお、工業用水道事業では明確な基幹管路の定義はなく、本市では導水管及び配水管を基幹管路と定義しています。

	(km)			
	総延長	配水本管	配水支管	導水管
(平成29年度末)	1029.9	117.2	885.3	27.4
水道事業	1029.9	117.2	885.3	27.4
工業用水道事業	86.3	62.3		24.0

I 水道・工業用水道事業会計

事業名	漏水対策事業(有効率向上対策) ⑦																				
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																		
<p>目的</p> <p>給水人口10万人以上の大規模事業体に対して国が求めている有効率(※1)(98%以上)の目標達成に向けて、①漏水の早期発見による二次災害の防止及び有収率(※2)の維持、②漏水発生リスクの低減、③漏水量の減少を目的に取組を進めます。</p>	146百万円	147百万円	132百万円																		
平成31年度内容	計画目標																				
<p>①漏水調査業務</p> <p>漏水の早期発見による二次災害(道路陥没事故など)の防止と有収率の維持を目的に実施している漏水調査に引き続き取り組みます。平成31年度については、武庫地区と立花・大庄地区の一部を対象に漏水調査(委託)を実施するとともに、本庁・小田地区の一部で職員による漏水調査を行います。(16百万円)</p> <p>②鉛製給水管公道部取替事業</p> <p>漏水発生のリスク低減のため、本市で発生する漏水修繕件数の多くを占める鉛製給水管の取替事業に引き続き取り組みます。平成31年度は、鉛製給水管公道部取替計画に基づき561箇所 of 工事をを行います。(130百万円)</p>	<p>平成32年度以降の有効率の各年度目標値については、現在策定中の次期ビジョンでお示しする予定ですが、次期ビジョンの計画期間(平成32年度～41年度)内に国が求める98%以上とすることを目指します。</p> <p>本市の有効率・有収率の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> <th>29年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有効率</td> <td>93.8%</td> <td>93.8%</td> <td>93.8%</td> <td>94.0%</td> <td>94.8%</td> </tr> <tr> <td>有収率</td> <td>91.0%</td> <td>91.1%</td> <td>91.0%</td> <td>91.3%</td> <td>92.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>①漏水調査業務</p> <p>調査結果を踏まえ、より効率的・効果的になるよう、調査方法の検討や区域等の選定を適宜実施していきます。</p> <p>②鉛製給水管取替事業</p>				25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	有効率	93.8%	93.8%	93.8%	94.0%	94.8%	有収率	91.0%	91.1%	91.0%	91.3%	92.1%
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																
有効率	93.8%	93.8%	93.8%	94.0%	94.8%																
有収率	91.0%	91.1%	91.0%	91.3%	92.1%																
 <p>鉛製給水管から耐衝撃性塩化ビニル管に取替え</p>	<p>取替箇所数 鉛製給水管の取替箇所数と残箇所数</p>  <p>漏水修繕工事や家の建替えに伴う給水装置工事改造工事の取替え、配水管布設替工事と合わせて取替工事を行うことで、公道部の鉛製給水管は平成40年度に解消する見込みです。</p>																				
<p>③配水管整備事業(No.2参照)</p> <p>本市において比較的地盤(標高)が高い北西部地域の一部とその他地域の水圧格差を低減(配水圧を適正化)させ、平成34年度以降、その他地域の余剰水圧を低減することで漏水量の減少に取り組めます。</p>																					

備考

※1 有効率: 有収水量に配水管の更新工事や公営企業局水道部で使用した水量など有効に使用された水量を加えた「有効水量」の割合

$$\text{有効率} = \frac{\text{有効水量}}{\text{配水量}}$$

※2 有収率: 浄水場から送り出された水量に対する料金等の収入のあった「有収水量」の割合

$$\text{有収率} = \frac{\text{有収水量}}{\text{配水量}}$$

配水量の分析(全国平均値)

区分		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
配水量	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
有効水量	有効率	92.8%	92.9%	92.6%	92.6%	92.8%
	有収率	90.1%	90.2%	89.8%	90.0%	90.3%
無効水量	無収率	2.7%	2.7%	2.8%	2.6%	2.5%
	無効率	7.2%	7.1%	7.4%	7.4%	7.2%

「水道統計」(社団法人 日本水道協会)より

I 水道・工業用水道事業会計

事業名	神崎浄水場ろ過池設備更新事業 ⑦		
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的			
「安全で良質な水道水の継続供給」と「災害に強い給水システムの構築」を目的に神崎浄水場の老朽化した設備を更新し、市内配水を安定的に行います。	490百万円	-	6百万円
平成31年度内容	計画目標		
<p>神崎浄水場のろ過池及び沈でん池の電気設備を、昭和60年度から61年度にかけて更新し、すでに30年以上が経過しています。また、ろ過池の洗浄時に開閉する弁類は、平成4年度から6年度にかけて更新し、すでに25年が経過しています。いずれも経年劣化が進んでいることから、安定した浄水処理を行うため更新するものです。</p>	<p>阪神水道企業団からの受水と神崎浄水場の自己水との持ち方など「施設能力の適正化」についての考え方を整理して次期ビジョンでお示しする予定です。しかし、人口の減少に伴い、今後も水需要が減少していくと考えられる状況や、現在の浄水量から勘案し、施設能力を日量8万4千m³から4万3千m³に縮小し、12池あるろ過池のうち6池のみを更新対象に取組を進め、平成31年度の工事完成を目指します。</p> <p>○スケジュール 平成29年度 設計 平成30年度 契約、着工(機器製作)(債務負担行為で予算措置) 平成31年度 機器搬入・設置工事完成</p> <p>○事業費 496百万円</p>		



神崎浄水場ろ過池

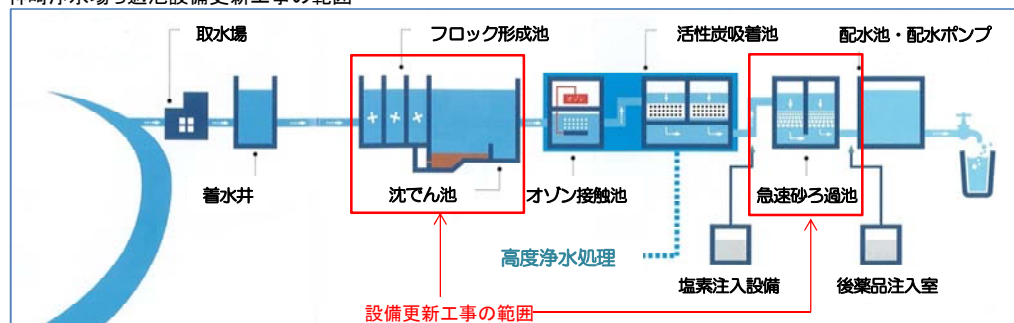


備考

【ろ過池】

細かい砂や砂利を敷き詰めたろ過層に水を通して、目に見えない濁りなどを取り除く設備

神崎浄水場ろ過池設備更新工事の範囲



I 水道・工業用水道事業会計

事業名	園田配水場集中監視制御設備更新事業 (新)		
------------	------------------------------	--	--

事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的	14百万円	-	-
「工業用水の安定供給」と「災害に強い給水システムの構築」を目的に、工業用水を市内ユーザー企業に対して安定的に給水するとともに西宮市及び伊丹市への安定的な供給を継続するため、園田配水場の老朽化した設備を更新します。			

平成31年度内容	計画目標
----------	------

本市工業用水の主要な配水施設である園田配水場の集中監視制御設備は、取水、浄水及び配水までを一元的に管理している工業用水の基幹的な設備であり、平成9年に設置され20年以上経過しています。当該設備の法定耐用年数は、一般的に10年とされていますが、本市においては、これまで点検結果に基づく主要部品等の修理・交換などによって延命化を図ってきました。しかし、部品の製造中止などで、これ以上の運用は困難な状況となっており、故障等が発生した場合には、ユーザー企業の生産活動への影響が避けられないことから、更新に向けた設計委託を実施するものです。

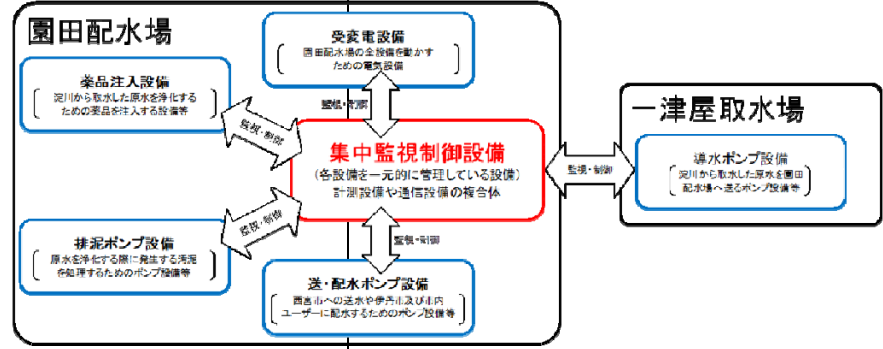
園田配水場集中監視制御設備の更新にあたっては、将来の他事業体と連携した施設のあり方に係る検討状況を踏まえる必要があるが、その実現までには、なお10年以上を要する見込みであり、当該設備の重要性を鑑み、平成31年度に設計業務委託を行い、平成33年度の工事完成を目指します。

- スケジュール
平成31年度 設計
平成32年度 契約、着工
平成33年度 工事完成
- 事業費
467百万円



園田配水場集中監視制御設備

法定耐用年数
通信設備 9年
計測設備 10年



備考

【集中監視制御設備】
遠方の取水場設備や浄水処理の設備を一元的に管理するための設備で計測設備や通信設備等からなる複合設備のこと。



広域的な工業用水の供給システムの概要図(現状)

I 水道・工業用水道事業会計

事業名 応急給水拠点整備事業(仮設給水栓を用いた応急給水拠点の整備) (拡)

事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的	16百万円	-	129百万円 ※

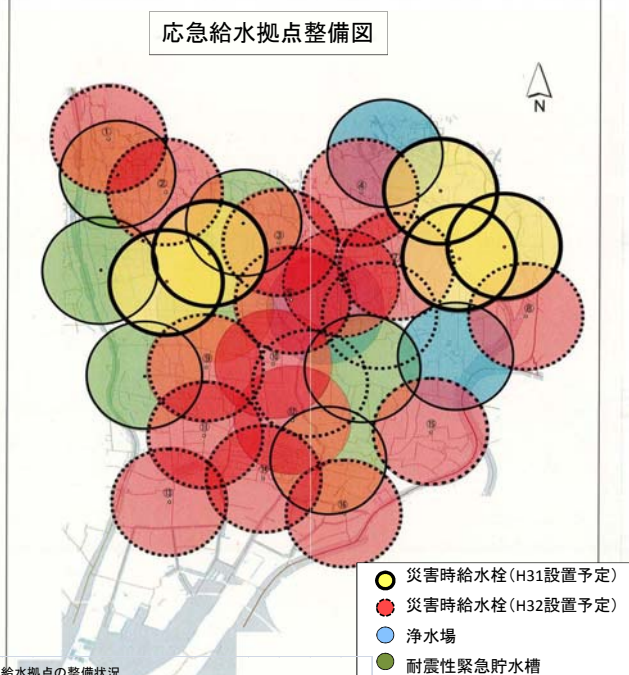
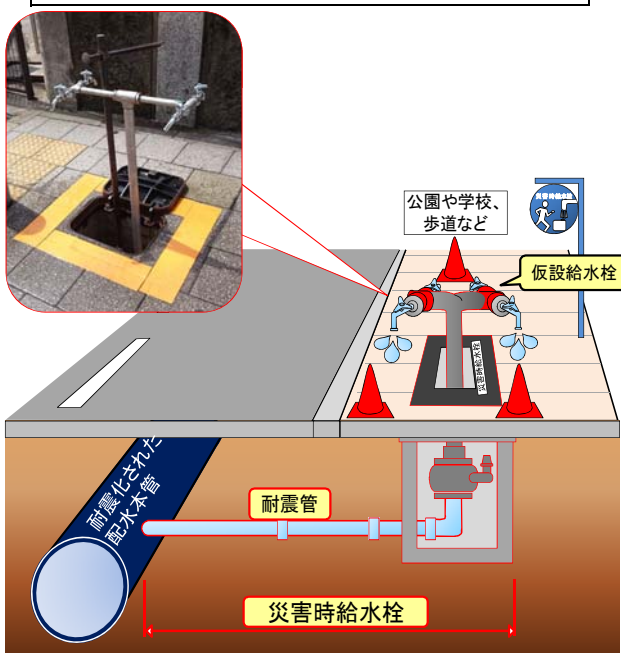
本市では、標高が高く浄水場から離れているために災害時に断水が発生する可能性が高い北西部地域でこれまで耐震性緊急貯水槽を整備してきました。一方、地震時の被害想定を再検証したところ、配水管全体の被害件数が増加した一方で、配水本管の被害件数が非常に少なく、地震発生初期から水圧が確保できる結果となりました。このため、配水本管へ応急給水拠点の整備を行い、地震発生初期から開設できる災害時給水拠点を耐震性緊急貯水槽に加えて市内全域で早期に確保し災害への備えをさらに充実します。

平成31年度内容 計画目標

- 災害時給水栓の新設(5箇所)
車道に布設されている既設の配水本管から分岐し、隣接する歩道や学校・公園等の公共施設内へ応急給水拠点を設けるための耐震管及び付帯設備を整備します。
- 仮設給水栓の購入(5セット)
災害時給水栓に設置する仮設給水栓を購入します。

地震発生初期3日間に対応できる応急給水拠点を市内全域半径1km圏内で設置するため、これまで整備してきた耐震性緊急貯水槽(7カ所)と浄水場の配水池(3カ所)に加えて、新たに災害時給水栓による応急給水拠点(20カ所)を整備します。

災害時給水栓のイメージ



応急給水拠点の整備状況

名称	施設数	整備状況
浄水場	3箇所	整備済み
耐震性緊急貯水槽	7箇所	整備済み
災害時給水栓	20箇所	整備予定

備考

- 【1 災害時給水栓の特徴】
- 水道管で供給するため、給水量の制限なく使用が可能であり、また、給水車による方法に比べて待ち時間が短縮されます。
 - 比較的少ない費用で短期間に整備が完了します。
 - 交通に支障の少ない安全な場所での応急給水が可能であるとともに、給水器具の操作も簡便であるため、市民の皆様が自ら設置し、給水して頂くことが可能です。
- 【2 整備スケジュール】
- 材料の仕様決定や設置場所の選定等を含め、平成31～32年度で整備を完了する予定です。

- 【3 運用形態について】
- 設置完了後は地域の皆様と共同訓練を行うとともに、当給水拠点の開設や運営等を市民の皆様や関係団体で行っていただく仕組みづくりを目指します。

【運用形態のイメージ】

	従来の運用形態	移行	今後の運用形態
給水用資機材	水道部で保管		現地備蓄
開設	職員		市民の皆様との連携
運営	職員		市民の皆様との連携



※平成29年度は、耐震性緊急貯水槽設置(武庫南小学校、100㎡、1基)

平成31年度に予定している主要事業

No.7

⑨は新規事業 ⑩は拡充事業 ⑪は継続事業

I 水道・工業用水道事業会計

事業名	上下水道お客さまセンターの開設及び運営 ⑪																																	
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																															
目的																																		
お客さまの利用機会が多い料金関連の窓口業務を上下水道庁舎1階の分かりやすい場所に集約し、業務委託範囲の拡大、関連する業務について包括的な委託方式に変更することにより、お客さまの利便性の向上や事務処理の効率化を図ります。	440百万円	162百万円	2百万円																															
平成31年度内容	計画目標																																	
<p>委託業務に係るモニタリングを継続して行うことで、窓口対応の改善や業務の効率性を高め、お客さまサービスを更に向上させていくことを目指します。</p> <p>【参考】主な費用 ①平成29年度： 2百万円(センター改修に係る設計) ②平成30年度： 162百万円(センター改修に係る工事等及び業務委託(1月～3月)) ③平成31年度： 440百万円(業務委託(4月～3月))</p>	<p>庁舎1階の職員食堂廃止後のスペースをお客さま窓口として活用するために改修工事を行い、料金関連業務の窓口を庁舎の2階等から1階に集約するとともに、「上下水道お客さまセンター」を平成31年1月に開設します。</p> <p>直営及び複数業者への個別委託などにより行っていた業務について、委託範囲を拡大するとともに、包括的な委託方式に変更します。これにより、複数業者との間で行っていた連絡調整の効率化を図るほか、給水装置工事に係る繁忙期の手続き期間を短縮します。</p> <p>また、職員によるモニタリングを継続して行い、より良いサービスの維持、向上を目指します。</p>																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>業 務</th> <th>実施前</th> <th>実施後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 受付業務</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給水装置関係</td> <td>直 営</td> <td rowspan="2">包括委託</td> </tr> <tr> <td>料金関係</td> <td>一部委託</td> </tr> <tr> <td>2 水道料金等徴収業務</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>調定・請求業務</td> <td rowspan="2">直 営</td> <td rowspan="5">包括委託</td> </tr> <tr> <td>工業用水の使用水量の調定・収納等業務</td> </tr> <tr> <td>計量・精算業務</td> <td rowspan="3">委 託</td> </tr> <tr> <td>収納・滞納整理業務</td> </tr> <tr> <td>各種データの入力業務</td> </tr> <tr> <td>工業用水の使用水量の計量業務</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3 給水装置に関する業務</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>給水装置工事の事前相談、事前協議(一戸建住宅)</td> <td rowspan="3">直 営</td> </tr> <tr> <td>給水装置工事の検査業務(立会含む。)</td> </tr> <tr> <td>給水装置の設計審査業務(一戸建住宅)</td> </tr> </tbody> </table>			業 務	実施前	実施後	1 受付業務			給水装置関係	直 営	包括委託	料金関係	一部委託	2 水道料金等徴収業務			調定・請求業務	直 営	包括委託	工業用水の使用水量の調定・収納等業務	計量・精算業務	委 託	収納・滞納整理業務	各種データの入力業務	工業用水の使用水量の計量業務		3 給水装置に関する業務			給水装置工事の事前相談、事前協議(一戸建住宅)	直 営	給水装置工事の検査業務(立会含む。)	給水装置の設計審査業務(一戸建住宅)
業 務	実施前	実施後																																
1 受付業務																																		
給水装置関係	直 営	包括委託																																
料金関係	一部委託																																	
2 水道料金等徴収業務																																		
調定・請求業務	直 営	包括委託																																
工業用水の使用水量の調定・収納等業務																																		
計量・精算業務	委 託																																	
収納・滞納整理業務																																		
各種データの入力業務																																		
工業用水の使用水量の計量業務																																		
3 給水装置に関する業務																																		
給水装置工事の事前相談、事前協議(一戸建住宅)	直 営																																	
給水装置工事の検査業務(立会含む。)																																		
給水装置の設計審査業務(一戸建住宅)																																		
																																		

備考

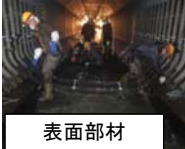


Ⅱ 下水道事業会計

事業名	次期下水道中期ビジョン策定事業 ⑨		
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的	11百万円	-	-
<p>下水道事業の課題への取組を効率的、効果的に進めていくとともに、市民の理解と協力を得るため、下水道施設の今後の整備に当たっての基本的な考え方(方針)及び主要施策の取組の方向性等を示すことを目的に、次期中期ビジョン(案)の策定を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現中期ビジョン : 平成24年度～平成33年度 ・次期中期ビジョン: 平成34年度～平成43年度予定 			
平成31年度内容	計画目標		
<p><中期ビジョンに定める主な内容> ○基本方針 ○整備目標 ○具体的施策 ○管理と経営に関する事項</p> <p>平成31年度は以下のことについて整理等を行う予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に係る資料の収集整理 ・計画策定の趣旨、目的等の整理 ・事業の現状、課題等の整理 ・基本理念及び基本方針の策定 ・施策の体系化 ・施策の目標の策定 ・施策の目標の達成に向けた行動指針の策定 <p>素案の作成や資料の作成等の補助業務の効率化と、計画の妥当性や実現性等を高めることを目的に、長期的で有効なビジョンの策定を目指し業務委託を実施します。</p> <p>【ビジョンの目指すべき方向性(イメージ例)】</p> <div style="text-align: center;"> <p>(国土交通省:新下水道ビジョンより抜粋)</p> </div>	<p>左記の項目について、平成31年度に作成するビジョンの素案にて、平成32年度に公営企業審議会で審議し、平成33年度においても同様に審議を進め次期中期ビジョンを策定します。</p> <p>【スケジュール(案)】</p> <p>平成30年度 部会の設立検討 基本理念の策定 課題の抽出</p> <p>平成31年度 課題に係る資料の収集 施策の体系化 目標・行動指針の策定</p> <p>平成32年度 ビジョン策定に係る公営企業審議会 施策の重要度・優先度の設定 中長期計画(案)の策定</p> <p>平成33年度 ビジョン策定に係る公営企業審議会 財政収支計画 ビジョン(案)のとりまとめ 公表</p> <p>平成34年度 新ビジョンに基づく事業実施</p>		
備考	<p>【ビジョンの目指すべき方向性】</p> <p>下水道を取り巻く環境は大きく変化しており、社会的な要求が多様化しています。今後も下水道サービスを安定的に提供するためには、市民のニーズ、財政状況等を把握した上で、多様化する下水道事業の課題に効率的、効果的に取り組む必要があります。</p> <p>下水道事業の課題について、現中期ビジョンでは老朽化する施設の改築更新、大雨による浸水被害の低減、想定される地震に対する耐震化等の防災対策及び高度処理の推進等を実施しておりますが、これらの取組は次期中期ビジョンにおいても継続させると共に、今後必要とされる下水道施設の再構築や災害への対策等を考慮した持続可能な下水道の方向性を示すように、ビジョンを策定します。</p>		

平成31年度に予定している主要事業

No.9

①は新規事業 ②は拡充事業 ③は継続事業

Ⅱ 下水道事業会計																											
事業名	下水道管きよ及び施設の改築更新事業(老朽化対策) ③																										
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																								
<p>目的</p> <p>下水道施設においては老朽化した管きよ及び施設の改築を計画である長寿命化計画(※)に基づき、継続的に下水道の機能を更新し、快適な生活環境を維持します。</p>	3,668百万円	4,685百万円 (平成29年度繰越額775百万円を含む)	3,308百万円 (平成28年度繰越額775百万円を含む)																								
平成31年度内容	計画目標																										
<p>長寿命化計画に基づき、以下の工事等を行います。</p> <p>○管きよ改築工事、老朽管調査 老朽化した管きよの集中する東部処理区(No.13参照)を中心に管更生工事16件を実施します。また、平成32年度以降の工事実施に向け、布設管きよの調査を行います。(1,961百万円)</p> <p>○施設の改築更新工事等 汚水ポンプ回転制御整備改築工事、地下燃料タンク設備改築工事、沈砂設備改築工事など、下水道施設の機械設備、電気設備の改築更新工事を行うとともに、エンジン等の消耗部品等の取替、分解整備により、機器機能の回復と延命化を図るための修繕工事を実施します。(1,707百万円)</p>	<p>下水道施設の長寿命化計画による管きよの改築更新</p> <table border="1"> <tr><td>目標値(平成31年度まで)</td><td>21,055m</td></tr> <tr><td>平成29年度まで実績</td><td>7,324m</td></tr> <tr><td>平成30年度実績(見込)</td><td>2,585m</td></tr> <tr><td>平成31年度予定</td><td>3,042m</td></tr> <tr><td>累計</td><td>12,951m</td></tr> <tr><td>進捗率</td><td>62%</td></tr> </table> <p>下水道施設の長寿命化計画による改築更新機器数</p> <table border="1"> <tr><td>目標値(平成31年度まで)</td><td>1,528台</td></tr> <tr><td>平成29年度までの実績</td><td>470台</td></tr> <tr><td>平成30年度実績(見込)</td><td>157台</td></tr> <tr><td>平成31年度予定</td><td>408台</td></tr> <tr><td>累計</td><td>1,035台</td></tr> <tr><td>進捗率</td><td>68%</td></tr> </table> <p>管きよ 総延長1,069km (平成29年度末現在)</p>			目標値(平成31年度まで)	21,055m	平成29年度まで実績	7,324m	平成30年度実績(見込)	2,585m	平成31年度予定	3,042m	累計	12,951m	進捗率	62%	目標値(平成31年度まで)	1,528台	平成29年度までの実績	470台	平成30年度実績(見込)	157台	平成31年度予定	408台	累計	1,035台	進捗率	68%
目標値(平成31年度まで)	21,055m																										
平成29年度まで実績	7,324m																										
平成30年度実績(見込)	2,585m																										
平成31年度予定	3,042m																										
累計	12,951m																										
進捗率	62%																										
目標値(平成31年度まで)	1,528台																										
平成29年度までの実績	470台																										
平成30年度実績(見込)	157台																										
平成31年度予定	408台																										
累計	1,035台																										
進捗率	68%																										
<p>管更生工事</p>  <p>表面部材</p>  <p>モルタル注入</p>  <p>更生完了</p>	<p>ポンプ、エンジン改修工事</p>  <p>その他設備改築工事</p> 																										
備考																											
<p>※ 平成20年度に「下水道長寿命化支援制度」を国土交通省が創設されたことを受けて策定</p> <p><現在実施中の改築計画></p> <p>○尼崎市下水道長寿命化計画(H25年度～H31年度)</p> <p>下水道施設の老朽化等に起因する日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす事故発生や機能停止を未然に防止し、ライフサイクルコストの最小化の観点から、計画的に改築を推進するため、「長寿命化対策」を含めた施設の改築等に関し、対策内容や対策時期等を定めたもの。</p> <p><現在策定中の改築計画></p> <p>○尼崎市下水道ストックマネジメント計画(策定期間 H29年度～H31年度)</p> <p>下水道長寿命化支援制度を発展させて、下水道施設全体の中長期的な施設の状態を予測しながら維持管理・改築を一体的に捉え、計画的・効率的に管理することにより下水道施設全体のライフサイクルコストの低減を図ることを目的として、平成28年度に「下水道ストックマネジメント支援制度」が国土交通省において創設され、当該制度を活用して策定しています。</p>																											

平成31年度に予定している主要事業

No.10

①は新規事業 ②は拡充事業 ③は継続事業

Ⅱ 下水道事業会計																																							
事業名	下水道浸水対策事業 ③																																						
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																																				
<p>目的</p> <p>近年の都市型集中豪雨に対応すべく、雨水整備水準を現在の6年確率降雨強度から国が示す中長期目標である10年確率降雨強度へ引き上げ、道路の溢水、浸水被害を軽減します。</p>	830百万円	1,330百万円 (平成29年度繰越額253百万円を含む)	576百万円 (平成28年度繰越額355百万円を含む)																																				
平成31年度内容	計画目標																																						
<p>○末端増補管整備(※1)</p> <p>シミュレーション結果により溢水が確認できた箇所において、10年確率降雨に対応する下水道管を整備します。(8百万円)</p> <p>○雨水浸透管整備(※2)</p> <p>尼崎市雨水浸透施設整備計画に基づき、浸透管を整備することで、浸水を軽減します。(35百万円)</p> <p>○雨水ポンプ(※3)能力増強改築工事</p> <p>大庄中継ポンプ場雨水棟7号ポンプ、中在家中継ポンプ場1号ポンプの改築工事を実施し、雨水排水能力の増強を図ります。(787百万円)</p> <p>○雨水貯留管整備(※4) (平成27年度～平成36年度)</p> <p>河川放流の増量が困難である武庫分区において、10年確率降雨に対応できるように、15,000㎡(全体20,000㎡)を貯めることのできる貯留管を整備します。(事業費調整中)</p>	<p>末端増補管整備(平成26年度～)</p> <table border="1"> <tr><td>対象箇所</td><td>22箇所</td></tr> <tr><td>平成29年度までの実績</td><td>9箇所</td></tr> <tr><td>平成30年度実績(見込)</td><td>2箇所</td></tr> <tr><td>平成31年度予定</td><td>3箇所</td></tr> <tr><td>累計</td><td>14箇所</td></tr> <tr><td>進捗率</td><td>64%</td></tr> </table> <p>雨水浸透管整備延長(平成21年度～平成38年度)</p> <table border="1"> <tr><td>目標値</td><td>5,200m</td></tr> <tr><td>平成29年度までの実績</td><td>2,490m</td></tr> <tr><td>平成30年度実績(見込)</td><td>180m</td></tr> <tr><td>平成31年度予定</td><td>150m</td></tr> <tr><td>累計</td><td>2,820m</td></tr> <tr><td>進捗率</td><td>53%</td></tr> </table> <p>雨水ポンプの能力増強台数(平成26年度～)</p> <table border="1"> <tr><td>対象箇所</td><td>50台</td></tr> <tr><td>平成29年度までの実績</td><td>7台</td></tr> <tr><td>平成30年度実績(見込)</td><td>3台</td></tr> <tr><td>平成31年度予定</td><td>2台</td></tr> <tr><td>累計</td><td>12台</td></tr> <tr><td>進捗率</td><td>14%</td></tr> </table>			対象箇所	22箇所	平成29年度までの実績	9箇所	平成30年度実績(見込)	2箇所	平成31年度予定	3箇所	累計	14箇所	進捗率	64%	目標値	5,200m	平成29年度までの実績	2,490m	平成30年度実績(見込)	180m	平成31年度予定	150m	累計	2,820m	進捗率	53%	対象箇所	50台	平成29年度までの実績	7台	平成30年度実績(見込)	3台	平成31年度予定	2台	累計	12台	進捗率	14%
対象箇所	22箇所																																						
平成29年度までの実績	9箇所																																						
平成30年度実績(見込)	2箇所																																						
平成31年度予定	3箇所																																						
累計	14箇所																																						
進捗率	64%																																						
目標値	5,200m																																						
平成29年度までの実績	2,490m																																						
平成30年度実績(見込)	180m																																						
平成31年度予定	150m																																						
累計	2,820m																																						
進捗率	53%																																						
対象箇所	50台																																						
平成29年度までの実績	7台																																						
平成30年度実績(見込)	3台																																						
平成31年度予定	2台																																						
累計	12台																																						
進捗率	14%																																						
<p>末端増補管</p>  <p>雨水浸透管</p>  <p>雨水ポンプ能力増強工</p>  																																							
備考																																							
<p>※1 末端増補管とは、生活道路等に埋設されていて、下水道の大きな幹線管きょから見て末端部分に位置する既設の下水道の管きょに対し、その管きょを増径して入れ替えたり、近接するマンホールを接続するバイパス管や既設管を補完するための新設管を入れた増補管等の整備をすることで、10年確率降雨に対する排水能力不足を補う施設です。</p> <p>※2 雨水浸透管とは、車道と歩道間のスペースに穴のあいた様な雨水用の特殊な管や柵を設置し、降った雨を地中に浸透させることで、下水道本管に流れ込む雨水量を抑制させることで、浸水被害の軽減を図る施設です。</p> <p>※3 雨水ポンプとは下水道のポンプ場において、管きょを流下してきた雨水を、河川などの公共用水域に放流するために設置されたポンプです。</p> <p>※4 雨水貯留管は、雨天時に増加する雨水を既設下水道管から取り込むことで一時的に貯留し、浸水の被害を軽減する施設です。</p>																																							

Ⅱ 下水道事業会計

事業名 下水道地震対策事業 (継)

事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的	271百万円	200百万円 (平成29年度繰越額58百万円を含む)	172百万円 (平成28年度繰越額21百万円を含む)
大規模な地震時に未処理の下水のまち中への溢水及び、河川や海への流出を防ぎ、衛生的で快適な生活環境を確保し、震災に強いまちを実現します。			

平成31年度内容 計画目標

尼崎市下水道総合地震対策計画に基づき、以下の工事を行います。

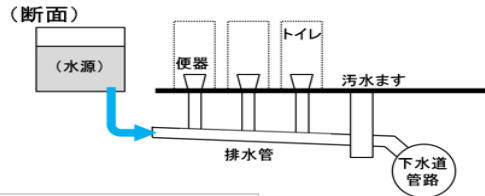
○マンホールトイレ(※)の設置
避難所となる小学校にマンホールトイレを整備します。平成31年度は6校に設置工事を行います。(平成31年度以降は各行政区に1校設置)(52百万円)

○避難所からの排水を受け持つ重要な幹線の耐震診断
平成31年度にマンホールトイレを設置する小学校からポンプ場に至る管径φ800mm以上の管きよの耐震診断を実施します。(20百万円)

○下水処理場及び中継ポンプ場施設の耐震化
高田中継ポンプ場、北部浄化センターの耐震補強工事を実施します。(199百万円)

スケジュール						
対象施設		H30	H31	H32	H33	H34
管きよ施設	管きよ					
処理場施設	北部浄化センター					
ポンプ場施設	中在家中継ポンプ場					
	大庄中継ポンプ場					
	高田中継ポンプ場					
	西川ポンプ場					
	富松ポンプ場					
その他施設	尾浜ポンプ場					
その他施設	マンホールトイレ	1校	6校	6校	6校	6校

マンホールトイレ



施設の耐震化



マンホールトイレ整備	
目標値(平成34年度)	25校
平成29年度までの実績	—
平成30年度実績(見込)	1校
平成31年度予定	6校
累計	7校
進捗率	28%

施設の耐震化	
目標値(平成34年度)	16施設
平成29年度までの実績	8施設
平成30年度実績(見込)	2施設
平成31年度予定	2施設
累計	12施設
進捗率	75%

備考

尼崎市下水道総合地震対策計画(計画期間平成30年度～平成34年度)

目的 地震時に下水道が機能を確保するための耐震化及び下水道機能のバックアップ対策とを併せて進めることをもって、地震に対する安全度を早急に高め、安心した都市活動を継続すること。

概要 1 耐震補強
管路施設 防災拠点、避難所からの排水を受ける管きよ
処理場・ポンプ場 耐震性能を満たしていないと判定のあった耐震補強未実施箇所
2 減災対策
マンホールトイレ 25校(1校あたり6基程度)
上部構造物等 備蓄倉庫、テントほか

※ 避難所に専用の下水道管を布設し、発災時は下水道管へ直接便器を接続し、テント等で囲うことで利用するトイレです。

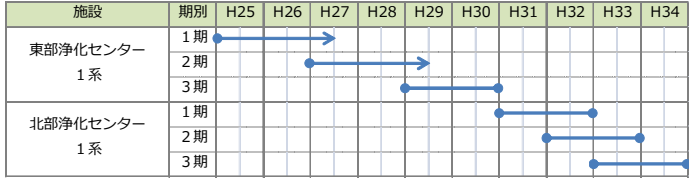
Ⅱ 下水道事業会計

事業名 下水道高度処理の推進 ⑦

事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的	908百万円	1,282百万円 (平成29年度繰越額308百万円を含む)	950百万円 (平成28年度繰越額178百万円を含む)

平成31年度内容 計画目標

○北部浄化センター1系水処理施設高度処理化
 北部浄化センターの1系水処理施設を3期に分け、第1期工事として、3水路あるうちの1水路の高度処理化を図ります。



耐震補強 (※1)



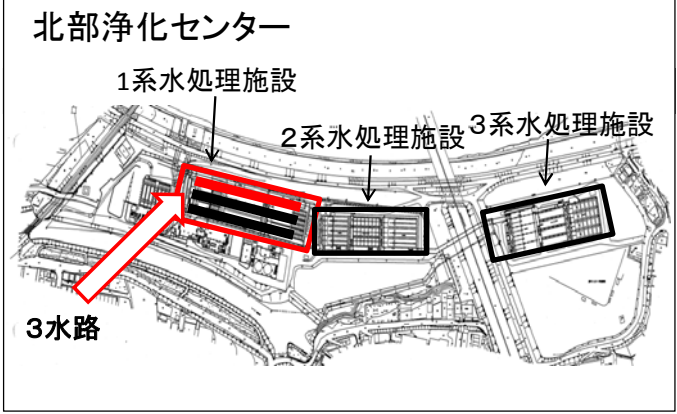
高度処理(機械設備) (※2)



高度処理(電気設備) (※3)



総事業費 約35億円 (平成31年度～平成34年度)



浄化センターの高度処理化	
目標値(平成34年度)	2系列
平成30年度実績	1系列(東部)
平成31年度予定	0.3系列
累計	1.3系列
進捗率	65%

備考

<高度処理化事業の概要>
 高度処理化事業は、平成34年度完成を目標に、東部浄化センター、北部浄化センターそれぞれ1系列の水処理施設を通常の下水処理に加え、窒素及びりんを除去する高度処理化を行っております。
 工事は、平成25年度から着手し、平成30年度末に東部浄化センターの1系列が完成する予定で、現在の東部浄化センターの水質改善状況としては、目標水質基準(1年間の平均で、窒素8mg/ℓ以下、りん0.8mg/ℓ以下)を達成しています。
 平成31年度からの4カ年で北部浄化センターの水処理水質改善を行っていきます。

<工事の内容>
 (※1) 土木工事: 隔壁の設置など高度処理に対応する水路の改築及び施設の耐震化を行います。
 (※2) 機械設備工事: 攪拌機設置など高度処理に対応する機器の改築及び古くなった設備の更新を行います。
 (※3) 電気設備工事: 監視制御設備の更新など高度処理に対応する機器の改築及び古くなった設備の更新を行います。

(新) は新規事業 (拡) は拡充事業 (継) は継続事業

Ⅱ 下水道事業会計

事業名	処理場・ポンプ場の運転操作等業務委託 (新)																		
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																
目的	185百万円	-	-																
処理場・ポンプ場の運転操作及び維持管理業務の一部について業務執行体制を見直し、効率化を図ります。																			
平成31年度内容	計画目標																		
平成31年度より、北部浄化センター、高田・西川・栗山・富松・尾浜中継ポンプ場及び東難波雨水ポンプ場の運転操作および維持管理業務の一部を委託します。 (下図赤枠 参照)	取組計画<平成31年度~>																		
(委託範囲) 平日夜間(17:00~翌日9:00) 土日祝日及び年末年始の終日	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th colspan="2">運転管理体制</th> </tr> <tr> <th>~H30</th> <th>H31~</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栗山中継ポンプ場</td> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">直営 39人</td> <td rowspan="6" style="text-align: center; vertical-align: middle;">[平日昼間] 直営 19人(▲20人) [平日夜間土日 祝日年末年始 終日] 委託</td> </tr> <tr> <td>富松中継ポンプ場</td> </tr> <tr> <td>尾浜中継ポンプ場</td> </tr> <tr> <td>東難波雨水ポンプ場</td> </tr> <tr> <td>北部浄化センター</td> </tr> <tr> <td>高田中継ポンプ場</td> </tr> <tr> <td>西川中継ポンプ場</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			施設名	運転管理体制		~H30	H31~	栗山中継ポンプ場	直営 39人	[平日昼間] 直営 19人(▲20人) [平日夜間土日 祝日年末年始 終日] 委託	富松中継ポンプ場	尾浜中継ポンプ場	東難波雨水ポンプ場	北部浄化センター	高田中継ポンプ場	西川中継ポンプ場		
施設名	運転管理体制																		
	~H30	H31~																	
栗山中継ポンプ場	直営 39人	[平日昼間] 直営 19人(▲20人) [平日夜間土日 祝日年末年始 終日] 委託																	
富松中継ポンプ場																			
尾浜中継ポンプ場																			
東難波雨水ポンプ場																			
北部浄化センター																			
高田中継ポンプ場																			
西川中継ポンプ場																			
	 栗山中継ポンプ場  北部浄化センター																		

備考

効果額 : ▲約11百万円

<処理場・ポンプ場の運転操作等業務委託実績>

東部浄化センター(平成15年度より)

中在家中継ポンプ場・東部雨水ポンプ場(平成16年度より)

大庄中継ポンプ場・臨海西部ポンプ場・臨海西部マンホールポンプ場(平成23年度より)を包括的民間委託しています。

(上図黒枠 参照)

【包括的民間委託とは】

処理場・ポンプ場の運転管理・維持管理業務や各種保守点検業務などに加えて、ユーティリティ調達業務や修繕業務などを含め民間事業者へ委託しています。

平成31年度に予定している主要事業

No.14

○(新) は新規事業 ○(拡) は拡充事業 ○(継) は継続事業

I 水道・工業用水道事業会計、II 下水道事業会計

事業名	広報・広聴活動 ○(継)		
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的			
水道、下水道ともに、人口減少などにより需要の減少が見込まれ、一方で施設の経年化が進む厳しい経営環境の中にあります。市民のライフラインである水道及び下水道が今後とも安定的に事業が持続されるためには、お客さまとコミュニケーションと情報提供がより重要となることから、より上下水道を身近に感じ、理解していただくこととするものです。	22百万円 (水道 15百万円 下水道 7百万円)	32百万円 (水道 27百万円 下水道 5百万円)	15百万円 (水道 13百万円 下水道 2百万円)
平成31年度内容	計画目標		
①水道及び下水道に関する情報を発信している広報紙「ウォーターニュースあまがさき」を平成31年度も継続して発行します。(年4回発行予定)(約10百万円) ②平成31年度も本市水道事業の象徴である神崎浄水場において、水道と下水道が連携し、見学等を通して、両事業を身近に感じていただくイベントを開催します。また、市民まつりなど各種イベントで広報活動を展開します。(約5百万円) ③下水道では全国的な取組である“マンホールカード”の継続配布や新たなデザインマンホールを考案し、作成・設置を行うなど、下水道に関心をもっといただける取組を行っていきます。(約3百万円) ④上下水道が一体となったホームページにリニューアルし、様々な情報提供に努めるとともに、その他啓発用パンフレット等の作成を行います。(約4百万円)	水道事業は給水収益の減少が続き、施設の老朽化が進む厳しい経営環境にあります。お客さまにはそうした水道事業の現状を理解いただくとともに、水道事業をより身近に感じ、お客さま自身のこととして理解いただくことを目標としています。また下水道事業についても暮らしに不可欠な存在である重要な社会インフラの一つであることを理解いただくことを目標としています。そしてそれらお客さまのお支えをもって水道及び下水道の安定的持続を目指し事業を行っていきます。		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ウォーターニュースあまがさき</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>神崎浄水場開放イベント</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  <p>尼崎市下水道 マンホールカード</p> </div>		
備考			

I 水道・工業用水道事業会計、II 下水道事業会計

事業名 水道料金及び下水道使用料の収納率向上 (継)

事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額
目的			
水道事業及び下水道事業の安定的な運営を図るため、収益の根幹をなす水道料金及び下水道使用料を確保するとともに、お客さま全体の負担の公平性を期する観点から、さらなる収納率の向上を図ります。	-	-	-

平成31年度内容 計画目標

水道料金及び下水道使用料の収納率向上を図るため、以下の項目に取り組みます。	尼崎市債権管理推進計画(H31~H34)に基づく、目標数値の達成に向けて取り組みます。																																																																					
<p>1 従前からの取組み</p> <p>(1) 新規の使用申込時の案内や納入通知書等を活用した口座振替払い及びクレジットカード払いの利用促進</p> <p>(2) 夜間徴収に重点を置いた訪問による面談の実施</p> <p>(3) 電話による督促の実施</p> <p>(4) 無断転居者に係る未収分の早期対応の実施</p> <p>(5) 水道料金滞納者に対する給水停止の実施</p> <p>2 平成31年度からの取組み</p> <p>(1) 訪問による納付交渉時や窓口へお支払いに来所された際など、お客さまと接する機会を活用し、口座振替申込用紙を手渡すなど、口座振替払いのさらなる利用促進</p> <p>(2) インターネットで口座振替の申込みができる「Web口座振替受付サービス」の実施 (平成30年11月から運用開始中)</p> <p>(1)及び(2)の取組みにより、自動払い(口座振替払い及びクレジットカード払い)の利用率を75%(平成29年度末72.92%)まで引き上げることを目指します。</p> <p>(3) 定例停水日のほか、約束不履行時の随時停水日を設けるなど、滞納状況に応じた給水停止の実施</p> <p>(4) 水道料金徴収業務に係る委託業者に対するインセンティブ基準について、近年の収納状況をもとに基準収納率を引き上げる見直しの実施</p> <p>(5) 下水道使用料徴収業務に係る委託業者に対するインセンティブの新たな導入</p>	<p>○ 水道料金</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H31</td> <td>H32</td> <td>H33</td> <td>H34</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>99.37%</td> <td>99.38%</td> <td>99.39%</td> <td>99.40%</td> </tr> <tr> <td>滞納繰越分</td> <td>74.34%</td> <td>74.74%</td> <td>75.14%</td> <td>75.54%</td> </tr> </table> <p>現年度分については、平成28年度中核市平均収納率(99.36%)を上回ることを目標に、平成34年度に99.40%の達成を目指します。 滞納繰越分については、さらなる収納率向上を目指し、毎年度0.4%の割合で増加することを目標とします。</p> <p>○ 下水道使用料</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H31</td> <td>H32</td> <td>H33</td> <td>H34</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>99.04%</td> <td>99.19%</td> <td>99.24%</td> <td>99.25%</td> </tr> <tr> <td>滞納繰越分</td> <td>87.37%</td> <td>87.57%</td> <td>87.77%</td> <td>87.97%</td> </tr> </table> <p>現年度分については、平成28年度中核市平均収納率(98.98%)を上回ることを目標に、平成34年度に99.25%の達成を目指します。 滞納繰越分については、さらなる収納率向上を目指し、毎年度0.2%の割合で増加することを目標とします。</p> <p>※ 納期等の関係上、現年度分については、いずれも翌年度5月末時点の数値を計上</p> <p>(参考)水道料金収納率の推移</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>99.17%</td> <td>99.33%</td> <td>99.27%</td> <td>99.30%</td> <td>99.35%</td> </tr> <tr> <td>滞納繰越分</td> <td>69.40%</td> <td>72.39%</td> <td>71.91%</td> <td>72.52%</td> <td>73.54%</td> </tr> </table> <p>(参考)下水道使用料収納率の推移</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H25</td> <td>H26</td> <td>H27</td> <td>H28</td> <td>H29</td> </tr> <tr> <td>現年度分</td> <td>98.52%</td> <td>98.70%</td> <td>98.67%</td> <td>98.69%</td> <td>98.74%</td> </tr> <tr> <td>滞納繰越分</td> <td>81.41%</td> <td>81.78%</td> <td>85.09%</td> <td>86.97%</td> <td>86.90%</td> </tr> </table>					H31	H32	H33	H34	現年度分	99.37%	99.38%	99.39%	99.40%	滞納繰越分	74.34%	74.74%	75.14%	75.54%		H31	H32	H33	H34	現年度分	99.04%	99.19%	99.24%	99.25%	滞納繰越分	87.37%	87.57%	87.77%	87.97%		H25	H26	H27	H28	H29	現年度分	99.17%	99.33%	99.27%	99.30%	99.35%	滞納繰越分	69.40%	72.39%	71.91%	72.52%	73.54%		H25	H26	H27	H28	H29	現年度分	98.52%	98.70%	98.67%	98.69%	98.74%	滞納繰越分	81.41%	81.78%	85.09%	86.97%	86.90%
	H31	H32	H33	H34																																																																		
現年度分	99.37%	99.38%	99.39%	99.40%																																																																		
滞納繰越分	74.34%	74.74%	75.14%	75.54%																																																																		
	H31	H32	H33	H34																																																																		
現年度分	99.04%	99.19%	99.24%	99.25%																																																																		
滞納繰越分	87.37%	87.57%	87.77%	87.97%																																																																		
	H25	H26	H27	H28	H29																																																																	
現年度分	99.17%	99.33%	99.27%	99.30%	99.35%																																																																	
滞納繰越分	69.40%	72.39%	71.91%	72.52%	73.54%																																																																	
	H25	H26	H27	H28	H29																																																																	
現年度分	98.52%	98.70%	98.67%	98.69%	98.74%																																																																	
滞納繰越分	81.41%	81.78%	85.09%	86.97%	86.90%																																																																	

備考

**水道料金等のお支払いには
便利でお得な口座振替払いをご利用ください。**

金融機関の預金口座から自動的に料金をお支払いいただく方法です。定例振替日に引き落とされた場合、請求金額から54円を割り引きます。ぜひご利用ください。

Webからのお申込みもできます！

○ Web口座振替受付サービス(インターネットで口座振替のお申込みができる受付サービス)の申込み手順について

簡単! 4つの申し込み手順

基本情報入力

口座名義人の氏名やメールアドレスを入力

料金情報入力

口座振替を申し込む料金の情報を入力

メール受信

口座情報入力サイトのURLとパスワードのメールが2通届きます

口座情報入力

サイトにログイン後、口座情報を入力 ※金融機関の選択後に金融機関のサイトへ移動します

登録完了!

登録したメールアドレスに登録完了のメールが届きます

Ⅲ モーターボート競走事業会計

事業名		電話投票売上向上事業 ⑧																	
事業概要		平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額															
目的		79百万円	39百万円	25百万円															
<p>近年、利用者数が著しく増加し、総売上の約4割を占める電話投票(インターネット投票)での発売に重点を置き、利用者数の更なる拡大と定着、売上の向上を目指す。</p>																			
平成31年度内容		計画目標																	
<p>○ 電話投票とは 電話回線やインターネットを使用して舟券を購入する方法。現在はスマートフォンの普及に伴い、インターネット投票が急速に拡大している。</p> <p>1 (仮称)電話投票優待サービス事業(新規) 本市の電話投票会員のうち、一定金額以上の舟券を購入いただいている会員に対して非売品の提供や、通常では体験できない観戦ツアーへの招待等サービスの充実を行い、定着化を図る。(4百万円)</p> <p>2 (仮称)ピットレポート配信事業(新規) ボートの発着場であるピットから、ボートレーサーのレース直前のコメントやエンジン・モーターの調子等をレース毎にライブ配信し、電話投票をはじめとする本場来場者以外のユーザーに対しても質の高い予想情報を提供する。 現在、SGレース等のビッグレースに係る予想情報のライブ配信については、全国のボートレース場で統一的に展開されているが、ボートレース尼崎独自にビッグレース以外でもライブ配信を実施し、情報を充実させることで、電話投票利用者の獲得を図る。(38百万円)</p> <p>3 電話投票キャンペーン事業(継続) 平成29年度よりサービスを開始したボートレース尼崎の電話投票会員クラブの運営とキャッシュバック等のキャンペーンを継続する。 これまで蓄積してきた顧客情報を活用し、会員獲得を重視した取組みから、会員の特性や購買金額に応じたサービス展開へ転換し、本市の会員の定着化、拡大を図る。(37百万円)</p>		<p>○ 電話投票1日平均売上の目標金額及び過去の実績推移</p> <p>①平成31年度目標金額 106,088千円 ※目標金額は、売上実績及び左記事業の効果額を考慮して決定</p> <p>②過去の1日平均売上の推移 (単位:千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27(実績)</th> <th>H28(実績)</th> <th>H29(実績)</th> <th>H30(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>電投売上</td> <td>46,466</td> <td>57,038</td> <td>70,395</td> <td>90,001</td> </tr> <tr> <td>割合</td> <td>29.3%</td> <td>34.2%</td> <td>38.5%</td> <td>41.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※毎年の開催が不確定なSG・GI・GIIIレースの売上は除く ※H30は平成30年10月末までの実績金額 ※割合は本市の総売上に占める電話投票売上の割合</p> <p>○ 電話投票利用者数(テレボート会員数) 691,091人(平成30年10月末時点)</p>				H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)	電投売上	46,466	57,038	70,395	90,001	割合	29.3%	34.2%	38.5%	41.2%
	H27(実績)	H28(実績)	H29(実績)	H30(実績)															
電投売上	46,466	57,038	70,395	90,001															
割合	29.3%	34.2%	38.5%	41.2%															
備考		<p>電話投票1日平均売上の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>売上(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H27</td> <td>46,466</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>57,038</td> </tr> <tr> <td>H29</td> <td>70,395</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>90,001</td> </tr> <tr> <td>H31</td> <td>106,088</td> </tr> </tbody> </table>			年度	売上(千円)	H27	46,466	H28	57,038	H29	70,395	H30	90,001	H31	106,088			
年度	売上(千円)																		
H27	46,466																		
H28	57,038																		
H29	70,395																		
H30	90,001																		
H31	106,088																		

平成31年度に予定している主要事業

No.17

(新)は新規事業 (拡)は拡充事業 (継)は継続事業

Ⅲ モーターボート競走事業会計

事業名	モーターボート競走場施設改修事業 (継)																						
事業概要	平成31年度概算額	平成30年度当初予算	平成29年度決算額																				
目的	186百万円	- (補正予算額 515百万円)	-																				
<p>メインスタンド建設後、20年が経過し、施設の老朽化が進んでいるとともに、現状の来場者数に対して過大な施設規模、経年によるアメニティ低下等の課題を抱えている。そのため、新しいファン層を誘引できる魅力ある快適な施設環境の確保、来場者の実態に沿った施設のコンパクト化、周辺地域への貢献をコンセプトにモーターボート競走場内の大規模改修を行う。</p>																							
平成31年度内容	計画目標																						
<p>施設整備を進めるにあたっては、レースを開催しながらの施工となることから、工期は短いことが望ましく、設計と施工を一括して発注できる「デザイン・ビルド方式」を採用する。</p> <p>なお、平成31年度は、選手宿舎建設予定用地にある建物の解体や、メインスタンドの改修を予定している。</p>	<p>施設の課題を解消し、ボートレース事業を安定的に継続しつつ本市財政に貢献するため、以下の方向性に基づいて施設の改修を進める。</p> <p style="text-align: center;">平成30～33年度：設計工事予定【メインスタンドの改修等】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">主な項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①食機能の集約・改修</td> <td>レストラン、売店をメインスタンド1階に集約・改修</td> </tr> <tr> <td>②観覧席の集約・改修</td> <td>有料指定席を3階の半分に移設、集約・改修</td> </tr> <tr> <td>③インフォメーション等の移設</td> <td>1階にインフォメーション、子どもルームを移設</td> </tr> <tr> <td>④トイレ、喫煙ルームの整備</td> <td>トイレの洋式化等</td> </tr> <tr> <td>⑤屋上・外壁等防水</td> <td>老朽化に対応した防水工事</td> </tr> <tr> <td>⑥エスカレーター等の改修等</td> <td>老朽化や法改正に対応するための改修</td> </tr> <tr> <td>⑦1号館、大屋根の撤去</td> <td>インフォメーション移設後の1号館、大屋根の撤去</td> </tr> <tr> <td>⑧イベントステージの移設</td> <td>現在、大屋根下にあるイベントステージの移設</td> </tr> <tr> <td>⑨正門及び西門の移設</td> <td>メインスタンド方向へセットバックした位置に移設</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">施設改修事業に伴う工事費 約36億円</p> <p>モーターボート競走事業は老朽化した施設の改修・改築等を行うためにこれまでの収益を建設改良積立金に積み立ててきました。当該競走場施設改修事業ではこれらの資金(建設改良積立金)等を活用し実施します。</p> <p>建設改良積立金(平成29年度末現在) 3,322,765千円</p>			主な項目	内容	①食機能の集約・改修	レストラン、売店をメインスタンド1階に集約・改修	②観覧席の集約・改修	有料指定席を3階の半分に移設、集約・改修	③インフォメーション等の移設	1階にインフォメーション、子どもルームを移設	④トイレ、喫煙ルームの整備	トイレの洋式化等	⑤屋上・外壁等防水	老朽化に対応した防水工事	⑥エスカレーター等の改修等	老朽化や法改正に対応するための改修	⑦1号館、大屋根の撤去	インフォメーション移設後の1号館、大屋根の撤去	⑧イベントステージの移設	現在、大屋根下にあるイベントステージの移設	⑨正門及び西門の移設	メインスタンド方向へセットバックした位置に移設
主な項目	内容																						
①食機能の集約・改修	レストラン、売店をメインスタンド1階に集約・改修																						
②観覧席の集約・改修	有料指定席を3階の半分に移設、集約・改修																						
③インフォメーション等の移設	1階にインフォメーション、子どもルームを移設																						
④トイレ、喫煙ルームの整備	トイレの洋式化等																						
⑤屋上・外壁等防水	老朽化に対応した防水工事																						
⑥エスカレーター等の改修等	老朽化や法改正に対応するための改修																						
⑦1号館、大屋根の撤去	インフォメーション移設後の1号館、大屋根の撤去																						
⑧イベントステージの移設	現在、大屋根下にあるイベントステージの移設																						
⑨正門及び西門の移設	メインスタンド方向へセットバックした位置に移設																						
備考	<p>※デザイン・ビルド方式とは・・・</p> <p>官民連携の手法の一つで、設計と施工を一括して1つの事業者(事業体)に発注する手法である。設計と施工を一元化することで、工期の短縮が図れるほか、施行者のノウハウや固有技術の活用により工事品質の向上や現場条件に適した合理的な設計が可能になる等のメリットがある。</p> <p>施設改修事業スケジュール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年6月 補正予算額 515百万円(債務負担行為額 3,091百万円) ・平成30年12月(現在) 事業者選定中 ・平成31年2月(予定) 事業者契約・締結着手 ・平成34年3月(予定) 事業完了 																						



メインスタンド